BOOKS　新刊紹介

『アイ・アム・ヒッピー』（増補改訂版）

日本のヒッピームーブメント史 '60—'90

アイアムヒッピー再発行に寄せて　宇摩

間もなく4月26日。チェルノブイリ事故が起きたあの日から27年。そしてポンがこの世を旅立ってからまる3年の月日がたつ。

この3年間に起きた福島原発の大事故はポンが生き返ってきやしないだろうか…と思うほどの衝撃だった。ポンと暮らした埼玉から約700キロ離れた岡山へ娘二人と商売道具の津軽三味線、少しの荷物とポンの骨と「アイアムヒッピー」を軽に積み込み夜中のハイウェイをブッ飛ばした。日本は終わった・・・世界の終りがきた・・・これがポンの危惧した世紀末だ！！とただそう思って西へ西へとアクセルを踏んだ2011年3月14日。

1937年生まれのポンが73年間生きた日本は確かに激動だった。いや時代に背くポンの生き方が激しかったのか・・・。幼児期に脊髄カリエスのために「せむし」となり『自分の肉体的な劣性（マイナス）は優性（プラス）に』と「月並み」な人生とは程遠いい人生を送った。60年安保に東京の街角で似顔絵を描きそこで出会った人間たちに刺激されフリークスで生きるポンの人生は始まった。

南の島でコミューンをつくり原始的な暮らしを目指した。「電気はいらないお金もいらない時には素っ裸で暮らしたりしたんだ」なんて昔話に私たちは度々噴き出した。それやっちゃったら追い出されて当たり前じゃん！と、地に足つく暇もないヒッピーを父に持つ二世は世間の目を気にする冷静な子どもに育った。

小さな村で起きた追い出し運動。右翼の街宣車が大音量で生活を脅かす島での生活に疲れた10代。そんなある日新聞でポンの連載記事が取り上げられる事に。「私の事を書いたら親子の縁を切ってやる！」と脅したほど思春期の娘に「ヒッピーの父」の姿は恥ずかしく、島を離れたポンが緊張感のある奄美大島での暮らしをリアルに感じてくれないお気楽さに腹が立った。その時の電話の向こうの声がとっても寂しそうだったのを思い出す。それでも原発反対！死刑廃止！戦争反対！天皇制反対！と運動に熱くなる後姿をみて育った私たちは、何の知識もないのに親を真似て原発反対！とデモに参加し警察にこづかれ熱くなり、制服ボイコット、登校拒否、ヒッチハイクで旅を。そんな娘たちの姿に親バカなポンは逞しい！と喜んだ。

73歳の春、二カ月後に奄美への旅を約束していたのにポンは風邪をこじらせあっけなくこの世を去ってしまった。涙が涸れるほど泣いた。ポンの残した書物を読みあさり、ポンの73年の人生を旅するように辿った。

いつでも自由に生きるポンを羨ましく思い誇りに思い、娘としてポンと出会わせてくれた人生に感謝した。

88年いのちの祭りでポンがいたずら心から「ただ今原発メルトダウン」とステージで言った悪質なジョークが現実に起きてしまうなんて・・・。

３．１１。こんな恐ろしい日本で子育てをすることになるとは。母子で移住した岡山の地でボブの歌う「ローリングドラゴンダンス」を聞いた。「荒ぶる魂よ　のたうつ龍よ　下北半島から　ビックマウンテンまで　死のベクトルを遡り　狂気と暴力の葛藤に舞う　放射能を浴び絶望を食らい　愛と希望の炎を燃やせ　ローリング　ドラゴンダンス」ポンの詩が瀬戸内海の海に沈む夜。

2013.4.12

ポンの「アイ・アム・ヒッピー」が又この世に出版されるには、十分訳がある。

田村正信(阿気)　長野

「俺はまだ生きている。あれ程身体の不調により死ぬ死ぬと言ってたにもかかわらず、良く生きているもんだ、なんて不安抱えていても、お互い笑っていたのにとうとうポンは死んでしまった。俺はまだ生きている。1967年、赤カラスにて肺結核により血を吐き、やっとこさで出生地、広島に帰り安芸の宮島の見えるサナトリウムに居る時、ポンは日焼けした真っ黒な顔をして出来上がったばかりの部族新聞を持って来てくれた。その時が初めての対面だった。

丁度10才年下の俺はいい兄貴分が出来たと直感しそれから付かず離れず広い時間帯を共有しそれから今まで就職もせず、のたうつ龍の尻尾をまだ、掴もうとしている。奇跡の様な毎日の日常に又、ポンの残した、「アイ・アム・ヒッピー」の増補改訂版が出されるという。

世代を超えてココに共感する、その明かりが絶望を希望に変容する種が見つかるといい。それを育てよう。

原子爆弾は物質科学文明の終到の象徴だと誰もが気づいたはず、そして今回は誰もが求める豊かさの象徴の原子力発電所の事故が人類を含め生命体、地球をも存続の危機に晒している事も気ずいているはず。

ポンと共に 「NO NUKE ONE LOVE」
そして、そして、「LOVE & FREE」

☀ポピ族からのメッセージ

「地球を敬い、そのすべての命を敬い、母なる地球の上を優しく歩くことだ。」

■増補版　A5版 340頁、箱入り
ポンの絵（カラー）、ヒッピー年表頁有り
注釈加筆・差し替え（おおえまさのり、あぱっち、ナーガ、きこり、さわ等執筆）
2500円（税別）送料無料
■部族新聞創刊号、Vol.2のポンの表紙絵（カラー）と記事の抜粋冊子の付録付き
■森と出版（（株）松栄印刷所内）
専用問い合せ先　090-3782-6404
hippiepon@yahoo.co.jp
5冊以上割引有り

印刷屋なのだから一冊はポンの本を出したいと思っていたのに、もたもたしているうちにポンが愛想をつかして先に亡くなってしまった。ポンが書き残したものを探してみたのだが、部族、いやヒッピーと言う言葉さえ過去の言葉になりつつある今、長い間絶版状態になっている「アイ・アム・ヒッピー」を伝え続けなければと思った。それは、いかに生きるべきかを惜しみなく希求し続けたポンたちの生きざまは、時代に褪せることなく、一歩を進みあぐねている人たちの糧に必ずなると信じているからだ。（akiko）